

No.	意見の概要	意見数	市の考え方
1	男女共同参画の理念は重要であり、市として引き続き推進すべきですが、専用施設の維持は費用対効果や利用状況の面で見直しが必要です。他の公共施設やオンラインの仕組みを活用して、より多くの市民に届く形で啓発や事業をすべきです。また、施策の普遍性という観点からも、特定の場所に依存せず、市全体に理念を広げていくことが本来の方向性だと考えます。 さらに、人口減少や財政の厳しさを踏まえると、限られた資源は子育て支援や結婚支援など市民生活に直結する分野に重点配分すべきです。したがって、センター廃止は理念の後退ではなく、より効果的な推進方法への転換として評価できます。	1	男女共同参画の理念を引き続き重要と考え、施設を持たずに形を変えて取り組んでまいります。また、限られた財源を、より効果的に活用する観点から、子育て支援や福祉、教育などの施策にも重点を置き、市の施策を進めてまいります。併せて、男女共同参画の理念を市全体に広げるために、今後も事業の充実に取り組んでまいります。
2	「ウィズ」は市民にとって大切な居場所であり、失えば再建は困難。存続に向けて知恵を出し合うべきだと考え、月1回利用者による開館・維持管理、関係団体や民間企業による協働運営、市民からの寄附を募り宝くじを買い、当選金額を施設維持に充てる案を提案します。	1	市といたしましても、施設の意義やこれまで果たしてきた役割については十分に認識しております。しかしながら、維持管理にかかる経費など、継続運営にあたっては解決すべき課題があり、現実的に困難であるとの判断に至りました。 ご提案いただきました市民や団体、民間企業との協働運営、経費削減の工夫などについても、これまでの検討の中で一定の可能性も模索してまいりましたが、現状では難しい状況です。 ただし、ご指摘のとおり、ウィズが担ってきた役割は大きいと認識しており、講座や相談などの事業は継続し、他の公共施設を活用しながら市民の皆様の活動の場を確保できるよう努めてまいります。
3	サークルとして男女共同参画センターを利用しており、施設の存続を希望する。 経費削減の工夫(使用時のみ開館、利用料の値上げなど)によって維持できる方法を検討してほしい。	3	
4	ウィズの廃止検討は、①男女共同参画センターとしての役割と②市民活動の場としての貸館機能を分けて考える必要があります。代替施設で貸館機能はある程度補えますが、男女共同参画推進の拠点としての役割は、市の担当課だけでは維持できません。従来のように市民が参画できる「場所」が必要であり、現ウィズをそのまま活用するのが妥当です。 また建物を解体せず、最低限の維持費で民間福祉事業者に期限付きで貸すなど柔軟な活用を検討してみるのはいかがでしょうか。	1	センターの閉館は、本市の財政状況から苦渋の判断であり、男女共同参画社会の実現はまだ道半ばであると認識しております。①男女共同参画センターとしての役割につきまちは、これまでセンターで実施してきた事業を他の公共施設等を活用し、実施してまいります。②市民活動の場としての貸館機能につきまちは、他の公共施設を代替施設としてご利用いただき、活動は継続いただければと考えております。また、閉館後の建物の利活用については、本市の財政状況も鑑みつつ、いただいたご意見を参考に、有効活用のあり方を検討してまいります。
5	地域社会では男女の固定的な役割分担が根強く残っており、この中で男女共同参画センターの役割は非常に重要だと感じています。これからの彦根市にとって、センターを廃止することは大きな損失です。因習や女性蔑視が残る地域では、若い人たちは住みたがらないでしょう。財源が少ないからといって、センターをすぐに廃止するのではなく、知恵を絞って継続できる方法を検討すべきです。また、ウィズの建物は市の中心部の福祉ゾーンにあり、本館はまだ十分に使用可能です。財政的な理由でウィズを存続させられなくても、施設を閉鎖するのではなく、建物を有効活用する方法を考えるべきです。	1	市といたしましても、施設の意義や役割については十分に認識しております。しかしながら、維持管理にかかる経費など、継続運営にあたっては解決すべき課題があり、現実的に困難であるとの判断に至りました。 閉鎖後の建物の利活用については、本市の財政状況も鑑みつつ、いただいたご意見を参考に、有効活用のあり方を検討してまいります。

No.	意見の概要	意見数	市の考え方
6	彦根の中心に位置し立地条件の良い皆が集いやすい所にあるウィズが使えなくなるのは、勿体ない思いでいっぱい。財政難との事は市民として理解するものの、閉館するまでに予算を段階的に減らして存続する事も出来ると良いのではと思う。来館すれば様々な企画で老若男女が交流できたり、展示物を見たり興味のある本を読んだり借りる事も出来て情報交換の場として使えなくなるのは大変残念。	1	市といたしましても、施設の意義やこれまで果たしてきた役割については十分に認識しております。しかしながら、維持管理にかかる経費など、継続運営にあたっては解決すべき課題があり、現実的に困難であるとの判断に至りました。ご提案いただきました経費削減した運営などについても、これまでの検討の中で一定の可能性も模索してまいりましたが、現状では難しい状況です。ただし、ご指摘のとおり、役割は大きいと認識しており、講座や相談などの事業は継続し、他の公共施設を活用しながら市民の皆様の活動の場を確保できるよう努めてまいります。
7	彦根市の財政等存続が厳しくなるのもわかるが、なんでもつづすのではなく、存続させていく方法を考えてもらいたい。少ない経費で運営することを考えてほしい。	3	
8	「彦根市男女共同参画センターの設置および管理に関する条例」の廃止(案)に対して反対します 男女共同参画センターを残して下さい。	3	ウィズが男女共同参画の拠点として、長年にわたり市民活動やジェンダー平等の推進に重要な役割を果たしてきたことは重く受け止めています。一方で、本市の厳しい財政状況から、現状の形での存続は困難であり、苦渋の決断となりました。ウィズ閉館後も、男女共同参画施策を継続していくことは重要と考えており、講座や相談機能の提供についても、市内の他の公共施設等を活用し、継続して実施できるように努めてまいります。
9	男女参画センターは、彦根以外でも各地域で様々な活動を行っており、地域に密着した活動や子ども支援等行う貴重な組織と考えます。当該組織を残していただくことを希望します。	1	
10	維持管理費が財政に与える影響も理解できるが財政問題だけでは解決すべきでは無く「男女共同参画センター」は必要だと思います。市民が集う施設は残してほしい。	1	男女共同参画センターの重要性と、市民の皆様が交流・学び合う場としての役割を深く認識しております。一方で、本市を取り巻く厳しい財政状況の中で、施設の維持管理に要する経費の確保が困難な状況にあります。そのため、やむを得ず施設の廃止を決定いたしました。男女共同参画の推進は引き続き大切にまいります。廃止後も市内の公共施設等を活用し、講座の開催や相談事業の実施など、必要な事業は継続して実施していく予定です。また、市民のみならず集える場につきましても、検討してまいります。
11	男女共同参画センターは学びの場であり、学びを通して人に会い、生活を豊かにしてきた。人々が繋がる場になっている。そのような場を失うと生活が悲しいものになる。そのような施設は他にない。人が集う場を継続してほしい。	21	
12	ウィズはみんなで話し合いをしたり、つながりを大切にしたりして過ごせる施設であり、男女共同参画社会にとってなくてはならない拠点施設であるため、廃止には反対する。拠点なくしてどうして男女共同参画施策ができるのでしょうか。	3	
13	彦根市男女共同参画センターの閉館は大きな損失です。拠点失くして男女共同参画社会づくりの施策はできない。国任せではなく、地方からの取り組みこそが前進につながります。市民が安心して相談や活動ができる拠点として、窓口を閉じないで欲しいです。	1	男女共同参画社会の実現に向けて、地方自治体の役割が重要であることは市も強く認識しております。施設の廃止は、本市の財政状況を踏まえた苦渋の決断ですが、市民の皆様が安心して相談や活動ができる体制を維持するため、他の公共施設等での事業継続や相談事業を実施してまいります。
14	空き家問題が目立つ中、公の施設を次の活用の目途もたてないまま予算の理由で閉鎖することには賛成できません。また、男女共同参画社会を構築するための拠点が閉鎖されるのは、事業そのものの縮小がたやすく予想され、それは昨今の時流を鑑みても、彦根の未来にとって由々しきことだと懸念します。	1	本市の財政状況から、センターの維持管理経費の捻出が困難な状況であることから、閉館の方向となったものです。男女共同参画の推進はまだまだ道半ばであり、ウィズ閉館後も、男女共同参画施策を継続していくことは重要と考えており、講座や相談機能の提供についても、市内の他の公共施設等を活用し、継続して実施できるように努めます。建物の利活用については、本市の財政状況も鑑みつつ、有効活用のあり方を検討してまいります。

No.	意見の概要	意見数	市の考え方
15	住民が集まりやすいので、閉鎖しないでほしい。月1回風通しのために子ども食堂に利用させてほしい。	1	市といたしましても、施設の意義やこれまで果たしてきた役割については十分に認識しております。施設を大切に思っていることも、いただいたご意見から重く受け止めております。
16	廃止に反対。施設の廃止により男女共同参画に対する意識が薄れる恐れがある。エアコンは新しくなり、設備も整っているため、廃止はもったいない。また、サークルで使用していた備品を使い続けたい。廃止せず、うまく活用して市民の生活向上に役立ててほしい。	2	しかしながら、維持管理にかかる経費など、継続運営にあたっては解決すべき課題があり、現実的に困難であるとの判断に至りました。これまでの活動を他の公共施設を利用して継続いただければと考えております。他の公共施設でサークル活動や子ども食堂を実施されているところもありますので、お困りのことがありましたら、担当課にご相談ください。
17	子ども食堂を通じて多くの人と関わり、元気をもらっている。その貴重な交流や支えの場をうばわないでほしい。	1	また、これまでウィズで実施してまいりました各種事業につきましても、市で引き続き実施できるよう努めるとともに、市民のみなさまが集える場につきましても、検討してまいります。
18	フォーラムの実行委員やかけはしの編集委員もして、男も女も自分らしく生きるにはどうすれば良いかを話し合いました。ウィズがなくなるのは残念です。彦根市社協が隣にあり、フードバンクや子ども食堂を利用されている方も困られるのではと思います。どういう形でも残す方法を考えていただけたらと思います。	1	
19	NPO法人で利用させて頂いています。調理実習室で調理を行い 生きづらさをかかえている若者達が集まれる交流の場として使わせて頂いています。これからも使いたいと思っています。そのような大事な場所をどうか閉鎖しないで下さい。	1	
20	悩みを持つ女性にとって、希望をもって生きていくためのヒントをもらえる場所、救いの手を差し伸べてもらえる人との出会いのある場所として利用されてきたので、何とか残してほしい。廃止するなら、代替案を提示してほしい。	3	
21	規模の縮小はやむを得ないとしても、集まれる場所は何らかの形で残してほしい。 ウィズマルシェなどの行事はいい行事だったので、縮小の中でも工夫して実施できる方法を考えてほしい。	2	
22	ホールで食事や会議をしたり、気軽に交流できるところがよかった。ウィズがなくなっても、他にもそういう場所があるといい。新しくできる図書館や市役所の中にでも。ウィズではいろいろな講座やフォーラムで勉強させてもらった。今後もフォーラムを市民と行政が一緒になって作って行きたい。	1	
23	男女共同参画はまだ発展途上であり、推進の拠点となる「ウィズ」が必要であり、閉鎖後の運営体制も不透明で不安である。ウィズは市民の手で運営され、地域に根ざしたネットワークが形成されており、閉鎖は地域の力と市民の希望を失わせることになる。	1	男女共同参画の取組が引き続き必要であること、また「ウィズ」が果たしてきた市民主体の活動や地域ネットワークの形成に重要な役割を担ってきたことは、市としても十分に認識しております。 施設の廃止は、本市の財政状況を踏まえた苦渋の決断ですが、施設がなくなることによって市民の力やつながりが損なわれることのないよう、今後も公共施設の活用や地域との連携により、活動の場と支援体制を維持できるよう努めてまいります。
24	彦根市全体の成長のためにも存続を希望する。女性の起業、自立が進む方が彦根市の利益にもなると考える。	1	彦根市全体の成長や女性の起業・自立が進むことが市の利益に繋がるというご指摘について、市としてもその重要性は認識しております。 しかしながら、本市の財政状況から、やむを得ず施設の廃止を選択せざるを得ないというのが現状です。 男女共同参画社会の実現はまだまだ道半ばであり、引き続き他の公共施設を活用して、施策の実施に努めてまいります。

No.	意見の概要	意見数	市の考え方
25	今まで続けてきた活動ができなくなるため困る。	2	これまで「ウィズ」を拠点として活動されてきた団体の皆様にとって、事業の継続が難しくなるのご懸念は、もったもなことで受け止めております。 施設の廃止後も、男女共同参画に資する事業や市民活動が継続できるよう、市内の他の公共施設の活用を含め、支援のあり方を検討してまいります。 施設廃止後の団体の活動につきましては、他の公共施設をご利用いただき、これまでの活動を継続いただきたいと思いますと考えております。お困りのことがありましたら、担当課にご相談ください。
26	今までと同じ内容で活動出来る場所をもうけてほしい。彦根の中心地にあり使用しやすいので継続してほしい。	1	
27	サークルとして利用しており、継続して活動したい。多文化交流の拠点としたい。	1	
28	サークル活動や子ども食堂で利用しており、代替場所の提供または推薦を希望する。低価格の利用料で現在の場所に近いところや他の施設の利用規約の緩和を希望する。できれば閉館は中止してほしい。	4	
29	子ども食堂で利用しており、調理室と会議室を同時に使える施設はウィズのみで、アクセスも良く、子どもや親が集まりやすい場所です。代替施設は仕様に制限や課題があり、福祉の拠点の立地条件を整えているウィズで活動を継続したいので、再検討をお願いします。	3	
30	登録団体として調理室をお借りし、子ども食堂を運営しています。設備や管理が整っており、コロナ禍には100食分の弁当を作ることもできました。現在は会議室も利用しながら親子の居場所づくりを続けています。また、ウィズの研修会に参加してジェンダーへの理解を深めました。県においても関心が高まっている今、なぜこの時期なのか疑問です。これまでの活動を継続できるよう、ウィズに代わる施設の確保を検討していただきたいです。	1	ご意見のとおり、センターは、交流や学習の機会を提供する重要な役割を果たしてまいりましたが、近年の厳しい財政状況を踏まえ、施設の維持・管理に要する経費を継続的に確保することが困難であることから、やむを得ず廃止の方針としたものです。しかしながら、男女共同参画の推進は、引き続き本市にとって重要な施策であるとの認識に変わりはなく、施設が果たしてきた機能については、代替施設等を活用しながら可能な限り継続してまいります。また、講座や相談などの事業についても、必要な取組として継続して実施していく予定です。
31	私は市民活動や講座参加を通じ、男女共同参画センターが「誰かとなら挑戦できる」場であり、学びや人との出会い、夜間も利用できる空間は大きな支えとなってきました。施設維持には資金が必要ですが、資金の優先順位を見直すなどして、施設の維持が不可能ならば、せめてセンターの機能は存続させてほしいと願います。	1	

No.	意見の概要	意見数	市の考え方
32	「独立行政法人男女共同参画機構法等」が成立した今、彦根市の男女共同参画センターを廃止することは、市と市民にとって大きな損失です。このセンターは21年間、市民と行政が協力し、男女共同参画を推進する重要な拠点でした。廃止によって、ジェンダー平等の推進が大きく後退することが懸念されます。財政的制約を理解しつつも、再度取り戻せるよう再検討を求めます。 提案として①現施設の活用再検討:市民と協力し、センターを空き家にするのではなく、男女共同参画や多世代交流、学習・活動の場として活用する方法を考え、財政負担を最小限に抑えるべきです。 ②事業継続のための調整:センター廃止後も男女共同参画推進の拠点は市内の他施設で継続し、重要な政策として事業の継続をお願いします。 ③具体的な方針の提示:センター廃止後の男女共同参画事業について、具体的な方針を示す必要があります。曖昧な説明ではなく、具体的な内容を市民に伝え、協働を促進することが求められます。 最終的には、条例の改正によってセンターを存続させることが可能だと考えます。市民の知恵を借り、柔軟な発想で再検討し、将来を見据えた賢明な判断をお願いしたいと強く願います。	2	本市が、県内でも先駆けて男女共同参画条例を制定し、センターを設立して以降、市民の皆様とともに、男女共同参画社会の実現に向けて取り組んでまいりました。ご指摘のとおり、ウィズは行政と市民の協働の場として、21年間にわたり大きな役割を果たしてきたことは、市としても認識しており、その歩みは本市の誇りでもあります。しかしながら、本市の財政状況から、現状の施設を維持することが困難となり、今回の苦渋の決断に至りました。施設廃止後の事業の継続につきましては、男女共同参画の理念を後退させることなく、他の公共施設等を活用し、事業を継続するよう努めてまいります。ただし、今後の具体的な実施内容や規模は、本市の財政状況や来年度予算の確定状況に応じて判断することとなるため、現時点でお答えすることができません。来年度予算の中で具体的に示していけるよう取り組んでまいります。 また、建物の利活用につきましては、市民の皆様の声を丁寧に伺いながら、本市の財政状況も鑑みつつ、有効活用のあり方を検討してまいります。
33	本年6月に男女共同参画社会基本法が改正され、男女共同参画センターは関係者間の連携・協働を促進するための拠点として法的に位置づけられました。これにより、地方公共団体にはセンター機能を確保する努力が求められています。 彦根市の財政状況については理解しますが、たとえ施設がなくなったとしても、市役所の女性活躍推進室に「彦根市男女共同参画センター」の看板を掲げて、センター機能を担う体制を整備してほしいと思います。男女共同参画推進事業については、業務委託などの形で継続していただきたいです。 財政難を理由にセンターを廃止するのではなく、代替案を具体的に示していただければと思います。これまでウィズや市民の皆さんが積み上げてきたものが途切れないよう、よろしくお願いします。	1	
34	これまで「ウィズ」が市民の居場所として機能してきたのは、指定管理者の功績であり、職員一人ひとりが個性を生かして運営してきた。そのような職員集団を失うことは、市にとって大きな損失である。 代替施設の紹介をするような説明は、市民が納得するに十分なものとはいえない。 また、行政だけでは限界があり、民間の力を活用することも検討すべきであり、すでにある公的施設の一部や民間施設の空きスペースでウィズの活動が継続できないか、柔軟な対応を模索する必要がある。	1	これまで「ウィズ」の運営に携わってこられた指定管理者および職員の皆様が、市民の皆様にとって身近で信頼できる存在であり、居場所づくりに大きく貢献してこられたことは、市としても十分に認識しており、感謝しております。 そのようなつながりを失うことが、市にとっても損失であるのご指摘はもっともであり、今後の男女共同参画施策を継続・充実していく上でも、これまで培われた知見や人材の力をどう活かしていくかが重要だと考えております。 いただいたご意見を今後の事業運営の参考とし、男女共同参画の取組をより良い形で推進していけるよう、引き続き努力してまいります。
35	彦根市男女共同参画センターの廃止は残念です。貸館機能は他施設で代替可能ですが、心理支援や相談機能には代替施設がなく、特に若年女性の自殺率上昇を踏まえると相談体制の強化が急務です。 当センターは臨床心理士・公認心理師が在籍し、心理支援や相談機能を業務委託として担うことが可能です。既に市職員や近隣自治体との契約実績もあります。ご検討をお願いします。	1	男女共同参画センターの機能のうち、貸館については他施設での代替が可能と考えておりますが、ご指摘のとおり、心理支援や相談機能の重要性については認識しております。 今後、相談機能のあり方や他機関との連携の可能性については、ご意見を参考にしながら検討を進めてまいります。

No.	意見の概要	意見数	市の考え方
36	今年6月に制定された男女共同参画機構法により、センター設置は自治体の努力義務となりました。国も各地に拠点施設の設置・充実を求めています。 彦根市は21年前に市民の声を受け、先進的に「ウィズ」を設立し、ジェンダー平等推進や市民協働の場として重要な役割を果たしてきました。しかし、市は財政難を理由に来年3月でウィズを廃止する方針を示しています。 指定管理費用の問題とセンター廃止は別の話であり、代替案もないまま廃止を進めるべきではありません。ウィズの廃止は彦根市の男女共同参画の大きな後退となります。 費用をそれほどかけなくてもすむ代替案を市は検討し、センターを残してください。条例は廃止せず、改正により形を変えてでも男女共同参画センターを存続させるべきです。このままウィズを廃止してしまえば、彦根の男女共同参画の歴史に汚点を残すことになります。	1	ウィズが男女共同参画の拠点として、長年にわたり市民活動やジェンダー平等の推進に重要な役割を果たしてきたことは重く受け止めています。 一方で、厳しい財政状況から、現状の形での存続は困難であり、苦渋の決断となりました。ご提案いただきました経費削減した運営などについても、これまでの検討の中で一定の可能性も模索してまいりましたが、現状では難しい状況です。 ウィズ閉館後も、男女共同参画施策を継続していくことは重要と考えており、講座や相談機能の提供についても、市内の他の公共施設等を活用し、継続して実施できるように努めます。ただし、今後の具体的な実施内容や規模は、本市の財政状況や来年度予算の確定状況に応じて判断することとなるため、現時点でお答えすることができません。 市としては、限られた財源の中で、男女共同参画施策をできる限り効果的に推進できるよう努めてまいります。
37	センターは市民と行政の協働や生活課題解決の重要な拠点であり、閉鎖による機能喪失を懸念しています。財政制約は理解するものの、他施設への機能移転や規模縮小で継続し、市民と協働した新たな活用策と明確な男女共同参画推進方針の策定を強く求めます。	1	
38	男女共同参画センターの廃止を検討していることは、法で地方公共団体に男女共同参画拠点設置が努力義務となったことに逆行している。 市民が学び、相談し、活動できる場所は市の発展にも不可欠であり、現センターの存続が難しくても、例えば今後リニューアルする図書館の一部利用など代替手段を検討すべきである。 男女共同参画事業は利益を生むものではないが、市民の人権保障のため公が担うべきであり、センターの存続と、財政状況に応じた運営方法について、指定管理者や市民との対話を継続することを求める。	1	ウィズが男女共同参画の拠点として、重要な役割を果たしてきたことは重く受け止めています。 一方で、厳しい財政状況から、現状の形での存続は困難であり、苦渋の決断となりました。経費削減した運営などについても、これまでの検討の中で一定の可能性も模索してまいりましたが、現状では難しい状況です。 ウィズ閉館後も、男女共同参画施策を継続していくことは重要と考えており、講座や相談機能の提供についても、市内の他の公共施設等を活用し、継続して実施できるように努めます。 市としては、限られた財源の中で、男女共同参画施策をできる限り効果的に推進できるよう努めてまいります。
39	地方での女性の生きづらさが注目される中、彦根市男女共同参画センターの廃止に反対します。センターは、男女共同参画を推進するために不可欠であり、以下の3点からその必要性を訴えます。 ①相談の場としての重要性:生活の困りごとを気軽に相談できる場所が地方には必要であり、心理的・時間的ハードルの高い市役所とは異なるセンターの存在は重要です。 ②女性の居場所としての意義:家庭外に安心して過ごせる場所が必要であり、センターは地域の女性や子育て世代の声を拾う拠点になります。 ③交流と情報共有の拠点:継続的な学びや市民のつながりを生み出す場所として、単発の講座では代替できない価値を持っています。	1	地方における女性の生きづらさや男女共同参画推進の重要性について、市としても深く認識しております。センターが果たしてきた役割やその必要性についてのご指摘は重く受け止めています。 今回の施設廃止は、本市の厳しい財政状況を踏まえた苦渋の判断であり、決して男女共同参画推進の取組を軽視するものではありません。今後も他の公共施設等を活用して、事業の継続と充実に努めてまいります。

No.	意見の概要	意見数	市の考え方
40	彦根市男女共同参画センター「ウィズ」は、失うと二度と取り戻せない価値があります。ウィズは世代や性別、国籍に関わらず誰もが関わる施設で、男女共同参画社会実現のために重要な役割を果たしてきました。ウィズを閉館する場合でも、その機能を残すことが、誰もがいきいきと暮らし活躍できる社会の実現に近づくと考えます。 現在、日本のジェンダーギャップ指数は世界118位。性別に関わらず互いに尊重し合うためには男女共同参画の取組が欠かせません。この取組には、熱意や正しい情報を得る姿勢、地域の人々を知る力が重要です。ウィズを通じて多くを学び、男女共同参画が身近なことだと気づきました。 今年の男女共同参画自書や内閣府の広報誌にも、男女共同参画センターが重要な拠点として位置づけられたことが記されています。ウィズがあったからこそ学べたことが多く、今後もこの取組を継続する必要があると強く感じています。 次年度以降、男女共同参画センターを廃止するのではなく、その機能を維持し、さらに発展させる方法を再考していただきたいと思います。現在困難を抱えている人々にとっても、男女共同参画社会の実現は不可欠であり、そのための施設と体制を守ることが重要です。	1	「ウィズ」が男女共同参画の推進に果たしてきた重要な役割や、地域づくりへの貢献については、市としても大変重要と認識しております。 しかしながら、本市の財政状況から、現状の施設を維持することが困難となり、今回の苦渋の決断に至りました。施設は廃止する方向となりますが、これまで実施していた事業等については、他の公共施設の活用等を通じて継続して実施し、男女共同参画の推進に努めてまいります。
41	ウィズは、市内外で男女共同参画を推進してきた重要な拠点であり、地方創生や若者・女性が住み続けたい地域づくりにも不可欠です。条例廃止によりセンターが消滅すると、これまで培ったノウハウや市民の力を活かせず、施策の縮小や損失につながります。財政的に厳しい場合でも、複合施設など新たな形での存続を検討すべきです。	1	
42	財政難を理由に閉館になるのは仕方ないと思いますが、まだまだ性差別のない社会には遠い現状、そして、センターを利用していた団体も多くあったように思います。「男女共同参画センター」の名前は残し、他の建物の一部を利用できるようにしていただけたら、と思います。	1	
43	男女共同参加センターが閉館されることは、時代の流れに逆行する決定であり、残念です。ウィズは20年に渡りいろいろな活動をしてきた市民のための重要な施設です。財政困難で、建物の継続は難しくとも、センター機能を他所へ移転しても、男女共同参画の司令塔として存続させる方法を考えてほしい。	1	
44	男女共同参画センターは、根強く残っているアンコンジャス・バイアスの解消に貢献されてきた。条例の廃止に伴い、拠点施設をなくし、施策男女共同参画に係る施策は企画課女性活躍推進室において継承するとのことであるが、いずれば企画課の施策の一部分として扱われ、そして徐々に埋没化・弱体化するおそれがあるため、女性の地位向上の観点からも廃止は断固許されるものではありません。	1	男女共同参画センターが男女共同参画意識の向上に果たしてきた役割は、市としても重要なものと認識しております。 施設廃止後も、男女共同参画施策を強化していけるよう、企画課女性活躍推進室で施策の推進に取り組んでまいります。

No.	意見の概要	意見数	市の考え方
45	彦根市の財政が厳しいため、男女共同参画センターの維持が難しいことは理解できるが、センター廃止と男女共同参画事業の推進は別問題であり、センターの機能をどのように引き継ぐかを明確に示す必要がある。 具体的には、相談事業の移管先や団体活動の場所の確保、男女共同参画事業の看板はどうするのか。 民間委託も選択肢だが、行政職員が関わり続ける体制も重要である。 行政・市民・議会が一体となり、知恵を出し合い協力して推進する姿勢が必要である。	1	ウィズが男女共同参画の拠点として、重要な役割を果たしてきたことは重く受け止めています。 一方で、厳しい財政状況から、現状の形での存続は困難であり、苦渋の決断となりました。 ウィズ閉館後も、男女共同参画施策を継続していくことは重要と考えており、講座や相談機能の提供についても、市内の他の公共施設等を活用し、継続して実施できるように努めます。ただし、今後の具体的な実施内容や規模は、本市の財政状況や来年度予算の確定状況に応じて判断することとなるため、現時点でお示しすることができません。 市としては、限られた財源の中で、男女共同参画施策をできる限り効果的に推進できるよう努めてまいります。
46	彦根市男女共同参画センター「ウィズ」の廃止により、以下の重要な機能が失われる懸念があるため、廃止に反対します。 ・啓発講座の実施の困難化 男女格差解消に向けた講座の企画・実施がウィズの閉館により実施されなくなることが予想されるため、対象や回数などを明確にし、実現可能な形で継続すべきです。 ・DV・セクハラ等の相談機能の喪失 ウィズは地域で身近な専門相談機関として認知され、心理的ハードルの高いDV相談において特に重要な役割を果たしてきました。これに代わる確実な相談体制を整備する必要があります。また、現在ウィズで実施している法律相談は無料ですが、廃止すると、近隣市では法律相談が無料または低額で提供されている一方、彦根市は有料相談しかなく、市民サービスに格差が生じます。	1	
47	ウィズで開催された男性料理教室やフォーラムに参加し、その中でジェンダーについても学びました。社会人になり、職場で女性の大変さを聞いて、日本はまだ男女平等が進んでいないと感じています。彦根市は財政難で男女共同参画センターを廃止すると発表しましたが、20年間続いた施設を廃止することに反対です。一度廃止すると、再建は難しくなります。市民が男女の不平等に気づき、意識を変えていく場はこれからも必要であり、代替案を考えるべきです。条例を改正して、センターを続けられるようにしてください。	1	
48	彦根市男女共同参画センターの設置および管理に関する条例廃止案に反対します。彦根市は県内で初めて男女共同参画推進条例を制定し、ウィズを市民の協力で運営してきました。このセンターは、性別役割分業の解消や女性の社会進出、男性の家事・育児参加を促進する重要な拠点となり、20年間成果を上げてきました。さらに、全国的に拠点施設の設置が義務化された今、廃止は暴挙と言わざるをえません。財政難を理由にするのであれば、他の施設の一角を確保して、男女共同参画の拠点施設としての機能を持たせることもできます。設置条例の改正によってセンターの機能を継続する方法を要望します。	1	
49	彦根市の男女共同参画センターおよび条例の廃止に驚きと強い不満を感じている。 県や国の政策に逆行し、女性政策や男女共同参画の推進が後退することを懸念しており、人口減少や人手不足の解決にも男女共同参画が重要であることから、市の方針を見直してほしい。	2	男女共同参画センターは多くの市民の皆様に利用され、市民活動や交流の場として、また男女共同参画意識の向上の拠点として重要な役割を果たしてきました。そのため廃止に対するご懸念は十分理解しております。 しかしながら、本市の厳しい財政状況を踏まえた上での判断であり、苦渋の決断であることをご理解いただきたいと存じます。廃止後も、他の公共施設を活用し、男女共同参画事業や市民活動の支援を継続してまいります。
50	彦根市男女共同参画センターの閉館は、男女共同参画推進や市民活動、市民交流に大きな損失をもたらします。他施設では代替できず、年間1万5千人の利用者や市民全体に影響があります。全国的にも影響が懸念されるため、見直しとセンターの継続を求めます。	1	

No.	意見の概要	意見数	市の考え方
51	全国に設置されている男女共同参画センターは、調査・情報・相談・研修・交流の5つの重要な機能を持つ拠点施設です。ウィズの20年間の活動や年間約1万5000人の利用者を考えると、財政難だけを理由に閉館するのは短絡的で、市民活動や市の歩みを否定することになります。市民との協働で存続・充実の方法を検討し、センターを維持するべきです。	1	「ウィズ」が長年にわたり、男女共同参画の推進拠点として、市民の皆さまの学びや交流、相談支援の場として重要な役割を果たしてきたことは十分に認識しております。しかしながら、本市の厳しい財政状況から、現時点では財政的に施設の維持は困難と判断いたしました。なお、男女共同参画の推進自体は引き続き重要な施策と位置付けており、情報発信、講座、研修、相談を実施するとともに市民活動の支援に取り組んでまいります。
52	彦根市男女共同参画センターの廃止は、国の方針に逆行するものであり、強く反対します。今年6月の法整備により、センターの設置は地方自治体の努力義務となり、その役割の強化が求められていますが、彦根市としてはこの法改正を認識されていますか。センターの廃止は、国の方針に逆行することになりますが、いかがお考えですか。さらに、廃止後の事業や職員体制に関する具体的な説明がなく、事業縮小への懸念が拭えません。施設の維持管理にかかる費用の捻出や、来館者数の減少を理由に、男女共同参画推進の事業費や人件費まで削るというのであれば納得がいきません。出前講座などでセンターの社会教育機能は代替できず、専門人材による相談体制も必要です。男女共同参画センターはなぜ他施設への機能移転などの調整をされないのか、理由をご説明ください。また、他に指定管理者となるべき法人その他の団体がいないようであれば、市の直営施設として存続させるべきと考えます。	1	まず、令和6年6月に制定された「独立行政法人男女共同参画機構法」や国の方針により、男女共同参画センターの設置が地方公共団体の努力義務とされ、その機能強化が求められていることについては、本市としても認識しております。こうした法整備の趣旨を踏まえ、本市としても引き続き、男女共同参画社会の実現に向けた取組は重要であると考えており、施設廃止後も、事業の継続・充実を図ってまいります。施設廃止の判断に至った主な要因は、本市の厳しい財政状況によるものですが、単に事業や人員を縮小することを前提としているわけではありません。具体的には、実施していた講座については、今後も市内の公共施設等を活用しながら継続して実施していく予定です。また、相談業務については、これまでと同様に対応できるよう、体制の維持に努めてまいります。市民の皆様が必要とする機能は可能な限り確保・継続できるよう、事業の内容や実施場所等について今後も工夫・改善を図ってまいります。また、指定管理者制度の活用や直営での運営についても検討しましたが、運営体制の確保や費用対効果などを総合的に踏まえ、現在の施設の運営継続は困難と判断したところです。今後も、男女共同参画の理念が市政に根づき、より多くの市民に広がっていくよう、事業の見直しや改善を図りつつ、引き続き着実に推進してまいります。
53	彦根市を目標に県内の自治体は男女共同参画を目指した行動を行ってきた。財政赤字を理由に拠点施設を閉館する行為はこれまでの活動の積み上げを無視する。男女共同参画社会は不要のシグナル発信に見えます。現建物不使用なら、代替施設を示して頂きたいです。折角より良い方向に向かう時に彦根市は閉館ではこれまでが勿体ないです。目に見える看板、建物は大変重要です。	1	これまで男女共同参画センターが果たしてきた役割、そしてその「場」としての存在の意義について、市も重く受け止めております。施設の廃止は、本市の厳しい財政状況を踏まえたものであり、男女共同参画そのものを否定するものではありません。廃止後は、他の公共施設を活用した講座や相談事業の継続、周知の工夫などにより、引き続き市民の皆様にとって「見える・届く」形で男女共同参画を推進してまいります。
54	廃止に反対します。税金がないので閉まるという事では、なっとくできない。場所がなくなる、閉めてしまえば終わりでは、市の運営が悪いのではないかと。	1	本市の厳しい財政状況の中で、公共施設の見直しは避けられない課題であり、市民の皆様に不安やご負担をおかけしていることについて、お詫び申し上げます。今回の施設廃止にあたっては、本市の厳しい財政状況から、苦渋の判断をいたしました。事業の継続に向けて、他の公共施設の活用など検討を進めております。いただいたご意見は真摯に受け止め、市政運営に努めてまいります。
55	『子を産め産め、人口増やせ』それなのに、ふれあいの館や荒神山自然の家、子ども食堂を行っているウィズをつぶすことは、子と親の居場所、憩いの場をうばうということです。子を持つ親の敵に値します。もっと他に削る所があるのではないかと。財政を見直すことは良いことだけれど、未来ある子どもたちの居場所が無くなるのは反対です。	1	

No.	意見の概要	意見数	市の考え方
56	彦根市が男女共同参画センター(ウィズ)の廃止を進めるにあたり、廃止理由の説明資料が公開されておらず、市民への説明責任を果たしていないと抗議します。また、廃止方針は男女共同参画審議会の調査審議を経ておらず、条例で定められた適正な手続きに反しており無効です。現行の「ひこねかがやきプランⅢ」では、ウィズの充実が基本施策とされており、審議会でも廃止は議題になっていません。したがって、審議も経ずに存続方針を転換するのは不適切であり、少なくとも計画期間中はセンターを存続し、熟議のうえ対応すべきです。	1	廃止理由の本市の財政状況や公共施設の状況につきましては、ホームページに「公共施設の見直しサイト」を作成し、公開しております。また、男女共同参画審議会は、施設の廃止の方針を決定する機関ではありませんが、男女共同参画計画「ひこねかがやきプランⅢ」や各施策について審議する機関であることから、センターの閉館後の施策の推進についてのご意見をいただき、そのご意見を施策に反映できるよう努めてまいります。
57	彦根市は財源不足で公共施設の維持が困難になり、いくつかの施設が閉館したり、介護施設も危機的状況にあります。市民はこれに理解を示しつつも、市の未来に不安を抱えています。特に、閉館の対応策が不十分で、市民に伝わっていないことが問題です。少子高齢化や都市間競争の中で、彦根市がどのように選ばれるか不透明です。行政は知恵を絞って対応策を考えるべきで、次の対応策を提案する。 ①施設を多目的に活用する(例:空き教室をウィズ代替拠点に)、②新施設の建設ではなく、既存施設の維持と有効活用で財源を充てる。③市民育成に財源を使い、協力を得る。④施設廃止時にはその理由と対応策を明示し、市民の不安を解消する。 これらの提案は、彦根市の持続可能な発展に向けた行政の知恵を求めるものです。	1	本市の厳しい財政状況の中で、公共施設の見直しは避けられない課題であり、市民の皆様に不安やご負担をおかけしていることについて、お詫び申し上げます。今回の施設廃止にあたっては、本市の厳しい財政状況から、苦渋の判断をいたしました。事業の継続に向けて、他の公共施設の活用や業務委託等の手法も含め検討を進めております。ご提案いただいた内容は、今後の公共施設の在り方や男女共同参画推進の取組の中で参考とさせていただきます。
58	他の施設もこのように閉鎖する計画があるのであれば示してください。センター閉鎖後も、登録団体や市民活動が継続できるよう調整や具体的な移管先の提示を求めます。また、楽器演奏ができる施設は市内ではあまりなく、予約も取りにくいのでこれ以上なくさないでほしいです。	1	本市の財政状況や公共施設の状況につきましては、ホームページに「公共施設の見直しサイト」を作成し、随時見直しのある施設についてお知らせしております。施設の閉館に伴う代替施設につきましては、他の公共施設をご利用いただければと考えておりますが、ご不安な点等ございましたら、担当課へご相談ください。
59	彦根市の経常収支比率は97.1%と財政に余裕がなく、人口減少や歳入増加の見込みも乏しい。したがって、必要性の低い公共施設は廃止すべきである。仮に存続させる場合も、他の施設やインフラとの優先順位を明確にし、低いものから見直すべき。市職員や執行部は、市の未来を考えるのであれば、こうした厳しい現状を市民に正直に伝えるべきであり、それが市内外へのPRにもなる。	1	彦根市の厳しい財政状況や人口減少を踏まえ、公共施設の適正配置と経費の効率化は重要な課題と認識しております。施設の廃止は、その中で慎重に検討した結果の判断です。今後も市民の皆様に現状をお伝えし、持続可能なまちづくりに向けて、取り組んでまいります。